

全学共通・教養科目

科目コード	13101		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	日本国憲法		担当者名	林 紀行・宮園 司史			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

1947年5月3日に日本国憲法が施行されてからすでに70年が経過した。この間、戦後復興、経済発展、IT時代の到来等この半世紀で我々の生活は大きく変わった。しかし、憲法を取り巻く状況、憲法を支える状況が変化しているにもかかわらず、日本国憲法は一度も改正されることなく現在に至っている。本科目では、そのような問題意識を持ちながら、われわれの日常生活での具体的な事例に照らしあわせ、21世紀の日本国憲法のあり方について考えることとする。

<授業の到達目標>

日本国憲法は、国の最高法規である。そこで、本講義では、その意味を理解することを第一の目的とする。次に、基本的人権および統治機構の項目のうち、重要なものについて、テキストを併用しながら、基礎的な知識の習得を目指す。そのことによって、日本国憲法を体系的に理解する力と社会の諸問題を憲法を起点に考える力を習得できることを到達目標とする。

<授業の方法>

講義を基本とする。受講者の人数によっては、グループワークやプレゼンテーションの手法を取り入れることとする。また、毎回、レポート課題を課すこととする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各講義のテーマに対して提示される予習項目をもとに、前回の授業で提示した課題や資料を調べ、ポイントをまとめ、何を考えたのかを整理しておくこと（各回1時間）。講義の中で、この点についての発問を行う。講義後には、配布プリントおよびノートをもとに、講義内容や自分で考えたことを整理し、理解の深化に努めること。また、学習の深化のための課題についても各自で調べること（各回1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、日本国憲法についての「専門分野に関する知識・理解」を習得し、深めることに力点を置く（DP2）。憲法尊重用語義務が公務員に課せられている理由や企業人に求められる人権感覚についての知識を深めることで、豊かな憲法生活を可能とする条件に付いて検討していく。日本国憲法を現実とのかかわりの中で理解するために、ビデオ教材を利用する。また、毎回の授業でレポートを課すが、その内容について学生が発表する形式を取り入れることとする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加状況・態度 20%、レポート 20%、定期試験 60%により、評価する。定期試験については、指定教科書、配布プリント（コピーは不可）、自筆ノートを持ち込み可とする。授業レポートについては、次回の授業で、内容についてのコメントを全体にフィードバックする。特に、内容の良いレポートについては、そのポイントを紹介し、共有できる体制をとることとする。

<教科書>

野畑 健太郎編（2017年）

憲法学事始（第2版）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	近代憲法の基本原理
2	日本国憲法の成立	日本国憲法の成立過程 憲法前文
3	天皇制	象徴天皇制 天皇の行為の分類
4	平和主義 1	憲法 9 条の解釈 自衛隊の役割
5	平和主義 2	国際貢献と自衛隊 安全保障法制 沖縄
6	基本的人権 1	基本的人権の原則
7	基本的人権 2	基本的人権の分類 1 自由権 社会権 平等権
8	基本的人権 3	基本的人権の分類 2 人身の自由 受益権
9	統治機構 1	国会の役割と権能
10	統治機構 2	内閣の役割と権能
11	統治機構 3	裁判所の役割と権能
12	統治機構 4	地方自治の本旨 団体自治と住民自治
13	統治機構 5	首長と地方議会の役割と権能
14	憲法改正	憲法改正手続きと現状 憲法改正問題
15	講義のまとめ	日本国憲法の課題

全学共通・教養科目

科目コード	13100		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー		担当者名	高崎展好、本庄慶樹、川瀬 雅、小島啓子、酒井健太郎、伊住継行、槇川 亨、真久田絹代、木戸和彦、中家淳悟、赤松久美子、細井健、三堀仁			○		
配当年次	1	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10% 毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU学①	建学の精神について
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	学部長・学科長講話	求められる先生像
6	スピーチスキルアップ講座?	伝わる内容を考える
7	外部講師による講話	「私は何より大切な存在－自尊感情を育む」近藤 卓 先生（日本ウェルネススポーツ大学）
8	教職経験のある教員による講話	小学校教諭、幼稚園教諭、保育士
9	スピーチ・スキルアップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
10	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす！伝える技術！
11	IPU学③	夢・挑戦・達成
12	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
13	教職について	教職支援室の教員による講話
14	4年生・卒業生による講話（教員・公務員・企業・トレーナー）	夢を実現した先輩からの講話をもとに大学生活について考える
15	メンター講話【2年生に向けて】、最終レポート、進路希望調査	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

全学共通・教養科目

科目コード	13100		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー		担当者名	和所泰史、石村和博、常浦光希、小澤尚子、前川真姫、浦部隼希、梶谷亮輔、白石 翔、國友亮佑、田邊良祐、田原陽介、山本清人、清水健太、小村 淳、原田悠平、品田直宏、江波戸智希、早田 剛、簗戸崇史、河野儀久			○		
配当年次	1	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU学①	建学の精神について
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える?	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座?	伝わる内容を考える
7	体育会入会式	体育会について知る
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	IPU学③	夢・挑戦・達成
12	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
13	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
14	4年生・卒業生による講話（教員・公務員・企業・トレーナー）	夢を実現した先輩からの講話をもとに大学生活について考える
15	メンター講話【2年生に向けて】、最終レポート、進路希望調査	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

全学共通・教養科目

科目コード	13200		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアディベロップメント		担当者名	後藤由佳、坂本博秋、趙 秋華 平松美由紀、松尾健太郎、高橋直樹、 中西紘士、前田一誠、森下裕三 井上 聡			○		
配当年次	2	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。保育士・幼稚園教諭・小学校教諭およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受け、社会人として必要な基礎力、実践力について学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の講話に主体的に参加し、講話からの学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化できる。3. 実践の場等を通じて、社会人として必要な実践力を身に付ける。

<授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク、グループディスカッション 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表)

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。(毎回30分程度)
 の講話についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。(毎回1時間程度)

復習：講義終了後、本時の

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は一般教養科目のディプロマポリシー6(自律や社会性等に関する態度・指向性)と関連付けられています。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、レポート課題・作品 60%、最終レポートまとめ 10%とする。必ず、授業時間と準備学習でレポート課題を完成させ、期日までに提出すること。また、公欠や欠席の際もレポート提出を求めます。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	本学の理念と教育活動	体育会入会式
2	本授業の目的、意義、建学の精神と教育指針	キャリアセンター長講話
3	プレゼンテーションに挑戦	専門家による講話
4	キャリア教育①	社会人に求められるマナーの基本
5	キャリア教育②	働くことの意味・魅力を考える
6	キャリア教育③	自己分析・適職発見プログラム 解説 R-CAP
7	プレゼンテーションコンテスト	プレゼンテーション能力を高める
8	前期まとめ	前期まとめ(進路希望調査とキャリア支援勉強会)
9	シンポジウム	犯罪被害者支援の会
10	保育・幼児教育の未来を創る①	保育現場とその実践①
11	保育・幼児教育の未来を創る②	保育現場とその実践②
12	キャリア教育④	教職を知る(保育現場の先生)
13	保育・幼児教育の未来を創る③	保育現場とその実践③
14	キャリア教育⑤	先輩による就職活動の講話
15	年間まとめ	学部長講話、最終レポート課題、進路希望調査

全学共通・教養科目

科目コード	13200		区 分	キャリア形成			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアディベロップメント		担当者名	平塚卓也、嘉門良亮、品田直宏 和所泰史、田中耕作、高山慎、 平田佳弘、片桐夏海、廣重陽介、 中川和之、桂 秀樹、崔 回淑 吉岡利貢、十河直太、齋藤祐一 保科圭汰、國友亮佑、飯出一秀 坂本、賢広、宮本 彩			○		
配当年次	2	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。教員・公務員・企業で働く卒業生による「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けたり、様々なスポーツ現場で専門性をいかして仕事をしてきた本学教員から話を聴くことで、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1) 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2) 毎回の講話に主体的に参加し、講話からの学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化できる。

<授業の方法>

講義およびディスカッションによって授業を行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（所要時間：30分）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。（所要時間：1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、レポート課題 60%、最終のまとめレポート10%とする。必ず、授業時間と準備学習でレポート課題を完成させ、期日までに提出すること。また、公欠や欠席した回についてもレポートの提出を求める。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	2年生を迎えるにあたって	キャリアセンター長による講話およびマナー講座
2	体育学科の学生のあるべき姿とは	学科長による講話
3	プレゼンテーションとは	効果的なプレゼンテーションについて（主に話し方）
4	チームビルディング	体育会イベントへの参加による帰属意識の醸成
5	キャリア教育（1）	働くことの意味・魅力を考える
6	キャリア教育（2）	自己分析・適職発見プログラム
7	プレゼンテーションコンテスト	プレゼンテーションコンテストの聴講および評価
8	前期のまとめ	就職支援講座についての説明、進路希望調査など
9	キャリア教育（3）	メンターによる講話（トップアスリートの人生）
10	キャリア教育（4）	メンターによる講話（教員・ユース指導者の人生）
11	キャリア教育（5）	メンターによる講話（アスリートを支援する人生）
12	卒業研究に向けて	卒業研究およびスポーツ科学センターの紹介
13	キャリア教育（6）	卒業生によるキャリア講話
14	キャリア教育（7）	4年生による就職活動体験談
15	まとめ	理事長による講話および進路調査

全学共通・教養科目

科目コード	14000		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ・Ⅱ		担当者名	佐藤 典子			○		
配当年次	3	配当学期	前・後期	単位数	1・1	授業方法	講義	卒業要件	必須

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成を実現しながら、就活支援も協力を推し進めるために、前期は具体的な就活能力向上につながる授業とする。後期は働くことの意義を考えたり、先輩の経験から学んだりするとともに、業界や職種の研究ができるようなプログラムである。

<授業の到達目標>

自己分析、業界分析ができるようになり、将来のキャリアを見通す力がつくようになること。

<授業の方法>

本学教員の他に外部講師を呼んでの講義、1グループを10名ほどに分けてグループ演習とディスカッション、またICT機器を使い映像を見ることで企業理解や就職活動への理解を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

外部講師を呼ぶ場合は事前事後に予習（30分）と感想文（1時間）の提出などを課題とする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本学の教育目標である「豊かな人間性と個性を有した実践力のある専門的職業人材・国際人の育成」と関連している。またディプロマポリシーである「自立や社会性に関する態度・指向性」「生涯にわたり学び続ける態度・指向性」と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度 60点、提出物 40点フィードバックについては提出物にコメントを記入して返却する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	初回ガイダンス	企業コースの学生への心構え、前期の授業概要説明、公欠についての説明など
2	学長講話	「教育と体育の融合、折れない、やめないIPU生」について
3	参加意識を高めるためのオリエンテーション	チーム作りとキャリア理論の紹介
4	就活学力の重要性	なぜ学力アップが必要なのか、社会で求められる能力とは
5	社会で活躍するために必要なこと	社会で活躍する先輩たちによる講話
6	インターンシップ 1)	本学のインターンシップについて説明・先輩から経験談を聞く
7	インターンシップ 2)	インターンシップの重要性や具体的な実施方法について学ぶ
8	自己分析 1)	DISC, MBTI, R-CapやPROGの教材を使って分析
9	自己分析 2)	自己分析に基づいて自己PRを書く練習
10	履歴書を書いてみる	これまでの学生生活を振り返るとともに、履歴書を書くことを意識して学生生活を送るようになる
11	やりたい仕事を考える	業界の特色や企業の選び方について
12	就活におけるコミュニケーションの重要性	ビジネスマナーやコミュニケーション能力について
13	グループディスカッション 1)	映画から学ぶ就活について
14	グループディスカッション 2)	キャリア育成についての課題を与えて討論
15	前期のまとめ	前期のまとめと、優秀チームの表彰など

全学共通・教養科目

科目コード	14000		区 分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ・Ⅱ		担当者名	檜寄 日佳、平松美由紀			○		
配当年次	3	配当学期	前・後期	単位数	1・1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインは、子ども発達学科に在籍している幼稚園・保育園・こども園への就職を希望する学生対象である。このクラスでは、保育職を選択し働くことの意義や自己理解を深める中で、保育職に進むために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導を行う。

<授業の到達目標>

1 保育職を選択し、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。2 自己理解を深め、将来の生き方について考える。3 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

<授業の方法>

講義、グループワーク、演習等の形で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了後に示す内容等を予習する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、講義内での課題等30%、最終レポート40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション学校支援ボランティアの勧め	本授業の目的・意義・概要保育職を志望する理由学校支援ボランティアの体験報告
2	学長講話	働くことの意義と職業選択
3	立ち振る舞い保育職採用試験の概要進路調査	社会人としての基本幼稚園教諭・保育士・保育教諭になるための心構え保育職採用試験の時期と内容・進路調査
4	幼保・施設の採用試験の流れと概要	幼稚園・保育所・こども園・施設の違い公立私立の違い合格までのスケジュール
5	保育者・施設職員の仕事とやりがい	DVD視聴「保育所と幼稚園の一日」「児童養護施設」
6	保育者・施設職員に求められる資質や能力①「現場が求める保育者・施設職員」	講話・グループディスカッション
7	保育者・施設職員に求められる資質や能力②「信頼される保育者」	講話・グループディスカッション
8	自己分析	長所・短所の分s根本 自己課題の発見
9	理想の保育者像・職員像	自己目標 グループディスカッション
10	社会人のマナー①	講習「身だしなみ、立ち居振る舞い」
11	社会人のマナー②	講習「電話のかけ方、言葉遣い」
12	教育現場の課題①「インクルーシブ保育」	DVD視聴「インクルーシブ保育」グループディスカッション
13	教育現場の課題②	DVD視聴「保護者からの相談」グループディスカッション
14	先輩保育士の講話	先輩保育者の体験談
15	前期の成果と課題	保育者・施設職員になるために努力していること後期に向けての課題、夏季休業中の過ごし方

全学共通・教養科目

科目コード	14000		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ・Ⅱ		担当者名	森 利治			○		
配当年次	3	配当学期	前・後期	単位数	1・1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザイン [公務員] は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として活躍している方をお招きしての講話から学び、公務員試験受験に必要な知識や能力を養い、将来のライフプランについて考えさせる。また、採用試験合格を目指して、模擬面接や公務員試験の一部科目の講義などの指導を行い、受験に対するモチベーションを上げていく。

<授業の到達目標>

1. 公務員就職について職種や試験の知識を学び、将来目指すべき職種を見つける。2. 自己理解を深め、将来の自分の方向性について考える。3. 公務員採用試験に合格し、面接、論文などの技術を高める。

<授業の方法>

講義、講演会、グループワーク（模擬面接、集団討論）等の形式で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：グループワークをする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ配布用紙に記入する。（1時間程度）復習：グループワークや講演会の場合は振り返りレポートを提出する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、一般教養科目のディプロマポリシー7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）と関連付けられている。3年次に採用試験に向けての知識と心構えを身につけ、4年次に本試験に合格できることを目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元別レポート 70%、授業に取り組む姿勢 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本科目の目的・意義・概要スーツ着用にあたっての再確認事項公務員を志望する理由立志会の説明
2	公務員試験の概要（1）	公務員試験の種類について
3	公務員試験の概要（2）	公務員の職種について
4	公務員試験の概要（3）	公務員試験募集要項の見方願書を作成体験
5	公務員試験の概要（4）	各種公務員試験の出題内容と実際の問題を見てみよう
6	講話「現場が求める人材」（1）	大都市圏の警察官の仕事について（1）
7	公務員試験の概要（5）	論文試験について
8	公務員試験の概要（6）	体力試験・適性検査について
9	講話「現場が求める人材」（2）	県庁職員の仕事について
10	公務員試験の概要（7）	面接試験について（集団面接）
11	公務員試験の概要（8）	面接試験について（個別面接）
12	講話「現場が求める人材」（3）	地方の警察官の仕事
13	立志会の入会説明	全体カリキュラムの概要、活動内容の説明、費用についての説明、4年生の先輩からの話
14	公務員試験の概要（9）	面接試験について（集団討論）
15	講話「現場が求める人材」（4）	市役所職員の仕事について（1）

全学共通・教養科目

科目コード	14000		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ・Ⅱ		担当者名	大野光二、中野隆重、坂根清貴 太田昌孝、赤松敏之、奥山優 延原まどか			○		
配当年次	3	配当学期	前・後期	単位数	1・1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインは、子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を希望する学生対象である。このクラスでは、教員を選択し、働くことの意義や自己理解を深める中で、教員になるために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、必要な取組について指導を行う。

<授業の到達目標>

1 教員を選択し、その職に進むために必要な資質や能力を高める。2 自己理解を深め、将来の生き方について考える。3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を指導する。

<授業の方法>

講義、グループワーク、演習の形で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習計画表をもとに各講座で学習した内容を復習するとともに、対策講座に生かしたり、次回の内容等について予習する。（30分から1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

現在の教育現場の課題を学び、教師に求められる資質や能力を高めることを通して、教師としての高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢（DP6）、子どものミライに対する強い使命感と責任、教師としての成長を目指した生涯学習力（DP7）を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、講義内での課題等 30%、最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 学校支援ボランティアの勧め	本講座の目的・意義・概要 教員を志望する理由 学校支援ボランティアの体験報告
2	学長講話	働くことの意義と職業選択
3	立ち振る舞い 教員採用試験の概要 進路調査	教員になるための心構え 教員採用試験の時期と内容、合格までのスケジュール 進路調査
4	授業の基礎・基本	授業と板書 板書の文字
5	講話 生徒指導	生徒指導
6	教育現場の課題1	講義～グループワーク
7	教育現場の課題2	講義～グループワーク
8	教育現場の課題3	講義～グループワーク
9	教育現場の課題4	講義～グループワーク
10	教育現場の課題5	講義～グループワーク
11	講話「現場が求める人材」	学校現場の現状と期待される人材 小学校長の講話
12	教師に求められる資質や能力1	講義～グループワーク
13	教師に求められる資質や能力2	講義～グループワーク
14	教師に求められる資質や能力3	講義～グループワーク
15	教師になるための取組の成果と課題	教師になるために努力していること 後期に向けての課題 夏季休業中の過ごし方

全学共通・教養科目

科目コード	14000		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ・Ⅱ		担当者名	早田 剛			○		
配当年次	3	配当学期	前・後期	単位数	1・1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

<授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きし、資料を配布し講義を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー1（医療人として、広範でグローバルな視点と知識を身に付けている）と関連付けられています。単に知識を習得・活用するだけでなく、これからの社会に対して柔道整復師がどのように活躍できるか考え、学生一人一人が社会に貢献できる柔道整復師像を確立できることを目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲50%、レポート50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	自己分析①	企業パンフレットを参考に就職先アンケートの実施
3	自己分析②	自己PRの仕方① 自分の強みを考える
4	自己分析③	自己PRの仕方② 名刺の役割および作成
5	自己分析④	自己PRの仕方③ 志望動機を考える
6	自己分析⑤	自己PRの仕方④ エントリーシートの書き方
7	自己分析⑥	自己PRの仕方⑤ 履歴書の書き方
8	職業倫理①	業界調査（地域医療に貢献する柔道整復師の実態）
9	職業倫理②	業界調査②（効果のある施術を探る）
10	職業倫理③	企業講話① 柔道整復師の業務とその実際
11	職業倫理④	企業講話② 柔道整復師が果たすべき役割
12	就職セミナー	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業と面談する。
13	職業倫理⑤	企業講話③ ヒポクラテスの「医の倫理」より読み解く柔道整復術
14	職業倫理⑥	企業講話④ 柔道整復術の短期的視点・長期的視点
15	職業倫理⑦	企業講話⑤ 柔道整復に関わるインターネット広告と職業倫理

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	佐藤 典子			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は就職活動と就職後に必要となる社会人基礎力の中から自己管理能力や対人スキルについての意識付けをして、それらのスキルを高めることを目的とする。特にコミュニケーション能力を伸ばすためにコーチングのスキルの実習をして、傾聴力や質問力を高める。15回のうち5回は客員教員によるコーチング特別授業を実施する。

<授業の到達目標>

ピアコーチングをすることで自己分析や自己発見につなげ、傾聴や質問のスキルを伸ばすことでコミュニケーション能力を上げる。当初にこれらのコンピテンシーを自己・他者採点し、前期終了時にも同様な採点をして到達度を可視化する。

<授業の方法>

講義、ディスカッション、コーチング・デモンストレーションの観察、コーチング実践ワーク、3人一組でのオブザーバーを入れた実践ワーク、グループ演習など。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

該当テーマについてテキストを事前に読み、授業での実践に向けて準備する。授業と授業の間に2人一組でコーチングを1回（片道30分・合計1時間）実施し、学んだスキルを復習する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本学の教育目標である「豊かな人間性と個性を有した実践力のある専門的職業人・国際人の育成」と関連している。またディプロマポリシーである「自立や社会性に関する態度・指向性」、「生涯にわたり学び続ける態度・指導性」と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度と意欲 30%、課題の提出 30%、最終的なスキルの進捗度合い 40%とする。フィードバックについては、提出物に教員がコメントを記入して返却する。また、スキルの習熟度のフィードバックについては、授業で演習中に直接フィードバックを実施する。

<教科書>

CTIジャパン

マンガでやさしくわかるコーチング

<参考書>

CTIジャパン

コーチングバイブル

東洋経済新報社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法、チーム作りのための演習
2	コーチングとは	1) コーチングの特性理解 2) コーチングとしての心の在り方 (Being) とスキル (Doing) の練習
3	自己分析	DISK, MBTI, ヒーローインタビューなど
4	アサーティブネスを高める	自己肯定感を高めるwin-winの人間関係の作り方
5	充実感を引き出す	1) 価値観・願いについての理解 2) 好奇心とオープンクエスチョンの練習と実践ワーク
6	働くことの意味は何か	個人プレゼンとグループディスカッション
7	本当の心の声を聴く	1) 心の氷山モデルの理解 2) 傾聴姿勢・受容力・メタファーの練習と実践ワーク
8	人的ネットワークの構築	講義と演習
9	本来の可能性を引き出す	1) 人の潜在的な可能性と自己制御の理解 2) 信じる気持ちとリクエスト・挑戦の練習と実践ワーク
10	リーダーシップ理論と実践	講義と演習
11	学びの統合	これまでの学びを振り返り、統合する
12	グループごとの研究活動 1)	プレゼンテーション課題の決定と計画策定
13	グループごとの研究活動 2)	データの収集
14	グループごとの研究活動 3)	プレゼンテーションの練習
15	グループ発表	発表、まとめ、講評

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	横内 浩平			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 理科系科目のうち比較的短期間で学習しやすい「地学」2. さらに点数を伸ばすために必要な「数学」

<授業の到達目標>

公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識する。また採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。今年度行われる公務員採用試験を受験するために必要な知識を養成し、採用試験に向けての準備を怠らないことを目的とする。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、一般教養科目のディプロマポリシー7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）と関連付けられている。3年次より始まっている「公務員対策講座」で基礎学力を身につけた4年生に対し、今年度の公務員試験に向けて学力伸ばすことを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 30%、授業態度 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

東京アカデミー（2017年12月1日発行）

オープンセサミシリーズ 国家公務員・地方初級④数学・理科〔第3版〕

七賢出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	地学 (1)	大気
3	地学 (2)	気象
4	地学 (3)	地球の内部構造
5	地学 (4)	地震
6	地学 (5)	岩石
7	地学 (6)	地球の歴史
8	地学 (7)	地球・太陽・月
9	地学 (8)	宇宙・太陽系
10	数学 (1)	数と式
11	数学 (2)	二次関数
12	数学 (3)	二次方程式
13	数学 (4)	図形と方程式
14	数学 (5)	その他の方程式
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	大野光二、中野隆重、坂根清貴 太田昌孝、赤松敏之、奥山優 延原まどか			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この講義は、小・中学校及び高等学校の教員になることを志望する学生を対象とした選択科目である。この講義では、4年次の教職を目指す学生の教員としての基礎知識と採用試験合格に向けた指導を実施する。

<授業の到達目標>

教職を希望する学生に、教員としての基礎知識や学校現場の抱える課題とともに教育採用試験に向けての願書の記入方法、面接・論作文・模擬授業についてのサポートと指導を行い、「学校」という現場を理解させるとともに学生の希望に応じた採用試験に合格できるなることを目標とする。

<授業の方法>

講義、グループワーク、演習の形で実施する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

3年次のキャリアデザイン、各対策講座で学習した内容を見直して授業に臨み、各授業終了後は、各自、対策講座及び自主学習において復習を行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教育公務員として勤務するに当たっての認識と社会性に関する態度(DP6)を身につけさせるとともに、教師として生涯にわたって学び続ける態度(DP7)を育成する科目である。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、講義内での課題等 30%、最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・当講座の内容及び予定について・教員採用試験までの過ごし方
2	教員採用試験の事務手続き	・採用試験応募要項の取り寄せ方・提出願書の記入方法・自己アピール文書の作成
3	論作文の攻略法①	・論作文を書くときの留意点
4	個人面接の攻略法①	・個人面接の回答の留意点・グループ別での実践
5	集団討論の攻略法①	・集団討論、グループワークの実施形態・討論の進め方・グループ別での実践
6	模擬授業の攻略法①	・模擬授業の概要・教採合格者の模擬授業の視聴
7	集団面接の攻略法①	・手段面接の回答の仕方・分かりやすく伝えるための方法
8	学長講話	・採用試験を間近に控えての心構え・進路に向けてのメッセージ
9	場面指導の攻略法	・場面指導の概要と実際・学校現場で起こりうる場面での対処法
10	模擬授業の攻略法②	・授業の進め方・教態について
11	・受験に際しての心構え・個人面接の攻略法②	・一次、二次試験に臨む心構え・聴き手を意識した回答の仕方
12	論作文の攻略法②	・読み手を意識した論作文の書き方
13	模擬授業の攻略法③	・効果的な模擬授業の実際・自治体別模擬授業の概要
14	レポート試験	・60分 900字・テーマ「学んだことをどのように教職に役立てるか」
15	集団討論、集団面接の攻略法②	・評価の観点を意識した面接、討論等の仕方・上手な討論の展開の仕方

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区 分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	檜 日佳			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

このクラスは国際教育学科に在籍する留学生対象である。日本あるいは出身国での就職を目指す留学生の就職活動における指導を実施する。

<授業の到達目標>

日本で就職を希望する留学生にエントリーシート記入の方法、面接対策、採用試験対策についてのサポートと指導をおこない、学生の希望に応じた企業・団体への内定獲得を目標とする。また出身国に戻り就職を希望する留学生に対しては、より多くの情報を集め学生と個別に相談しながら、希望に沿った企業や団体への就職獲得を目指す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、演習、面談の形で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、講義内での課題等 30%、最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的とその概要について
2	自己分析	日本で就職するのか、出身国で就職するのか
3	就職するには(1)	自分のアピール方法を知る
4	就職するには(2)	就職活動の流れと準備
5	就職するには(3)	企業・業界を知る
6	就職するには(4)	情報収集の方法
7	就職するには(5)	希望企業・業界の決定
8	就職活動サポート(1)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(1)
9	就職活動サポート(2)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(2)
10	就職活動サポート(3)	筆記試験・適性検査対策(1)
11	就職活動サポート(4)	筆記試験・適性検査対策(2)
12	就職活動サポート(5)	個人面接・集団面接対策
13	就職活動サポート(6)	個人面接・集団面接練習(1)
14	就職活動サポート(7)	個人面接・集団面接練習(2)
15	まとめ	就職活動を振り返って

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区 分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	飯出 一秀			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

このクラスは健康科学科に在籍する学生が対象である。接骨院、整形外科クリニックをはじめとした医療機関、フィットネスクラブ、介護事業所などへの就職を目指す学生の就職活動における指導を実施する。

<授業の到達目標>

日本で就職を希望する留学生にエントリーシート記入の方法、面接対策、採用試験対策についてのサポートと指導をおこない、学生の希望に応じた企業・団体への内定を獲得できることを目標とする。また出身国に戻り就職を希望する留学生に対しては、より多くの情報を集め学生と個別に相談しながら、希望に沿った企業や団体への就職獲得を目指す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、演習、面談の形で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。予習復習にはHPで集めた情報の中より有用なものを抽出し、レポートはword、excel、powerpointを用いDropboxを用いて提出する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

医療人として現代社会に果たす役割を理解し、様々な立場の人々と良好に職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付け、感性豊かな人間性と高い医業倫理を備え、柔道整復学を中心として、健康科学、体育学、スポーツ医科学の学際的領域で他者と協調できるスキルを身に付ける。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内の討論参加度合 30%、講義内での課題遂行度合 30%、最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的とその概要について
2	自己分析	就職先となる医療・福祉業界の特徴を知る。
3	就職するには(1)	自分のアピール方法を知る
4	就職するには(2)	就職活動の流れと準備
5	就職するには(3)	企業・業界を知る
6	就職するには(4)	情報収集の方法
7	就職するには(5)	希望企業・業界の決定
8	就職活動サポート(1)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(1)
9	就職活動サポート(2)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(2)
10	就職活動サポート(3)	筆記試験・適性検査対策(1)
11	就職活動サポート(4)	筆記試験・適性検査対策(2)
12	就職活動サポート(5)	個人面接・集団面接対策
13	就職活動サポート(6)	個人面接・集団面接練習(1)
14	就職活動サポート(7)	個人面接・集団面接練習(2)
15	まとめ	就職活動を振り返って

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	大平 真紀子			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

このクラスは国際教育学科に在籍する留学生対象である。本授業では自分の希望進路へ進むための準備をし、卒業後に即戦力として活躍できるための力を養っていく。日本あるいは出身国での就職を目指す留学生へは就職活動における指導を実施する。大学院等進学志望者に対しては授業以外に個別指導をおこなう。

<授業の到達目標>

日本で就職を希望する留学生には3年次「キャリアデザイン」に引き続き、エントリーシート記入の方法、面接対策、採用試験対策についてのサポートと指導をおこない、学生の希望に応じた企業・団体への内定獲得を目標とする。また出身国に戻り就職を希望する留学生に対しては、より多くの情報を集め学生と個別に相談しながら、希望に沿った企業や団体への就職獲得を目指す。大学院等進学志望者に対しては、研究計画作成の指導等を行い、希望進学先への合格を目標とする。

<授業の方法>

講義に加えてディスカッションやグループワークを通して自分の進路を確定する共に、就職・進学準備を進めていく。授業においては各テーマに沿った課題に取り組み、最後には学習成果のプレゼンテーションを実施する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマにそった事前学習・事後活動に関し各1時間程度取り組んでほしい。またグループ課題については、授業外の時間を使い、こちらも最低1時間を費やしてほしい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業を通して自分の進路について考え決定すると同時に、日本のビジネス文化を学ぶことで生涯にわたり学び続ける態度・指向性、自律や社会性等に関する態度・指向性を身に付ける。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、講義内での課題レポート 30%、最終プレゼンテーション 40% レポートの提出はLMS、DropBox、ユニパ等を活用する。就職活動活動や進学準備期間中はユニパにおいて学生・教員間および学生間の情報交換をおこなう。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	これまでの就職活動の振り返り	就職活動の注意点
2	企業説明会	ベトナム企業説明会
3	ビジネスマナー①	社会人としての心構え
4	ビジネスマナー②	オフィスマナー、電話応対について
5	ビジネスマナー③	接客マナー、席次について
6	ビジネスマナー④	名刺交換、日本の読みにくい名前等
7	ビジネスマナー⑤	アポイントメント・提案の申し出等
8	ビジネスマナー⑥	ビジネスレター、メール送信のマナー等
9	日本のオフィス文化理解①	税金、福利厚生等
10	日本のオフィス文化理解②	ワークルール、残業等
11	卒業後の在留資格について	特定活動を含む在留資格の変更について
12	就職説明会	国際人材活用ネットワーク交流会（大阪）予定
13	日本のオフィス文化理解③	新入社員の心構え
14	日本のオフィス文化理解④	職場における自己紹介など第一印象
15	おわりに	自分の人生設計